

[演題6]

国家試験成績と専門必修科目成績との関連 ～2013年理学療法学専攻卒業生の調査より～

村 尾 浩

医療リハビリテーション学科 理学療法学専攻

Key Words：国家試験，専門必修科目，相関関係

1. はじめに

神戸学院大学総合リハビリテーション（以下、リハ）学部では、理学療法士・作業療法士等の国家試験に合格する学識を修得することをディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げている。当学部では人生の再構築に寄与しうる人材を幅広く受け入れ、4年間で国家資格に合格できるようカリキュラムを編成しているが、カリキュラムの一部分である各科目成績が国家試験合格とどのように関連しているかは明らかにされていなかった。

今回、理学療法学専攻卒業学生の国家試験成績と在学中の専門必修科目成績との関連を調査する機会を得たので報告する。なお、この研究は神戸学院大学ヒトを対象とする研究等倫理委員会から承認を受けている（承認番号 HEB110608-3）。

2. 対象と方法

2009年に神戸学院大学総合リハ学部医療リハ学部理学療法学専攻に入学した43名のうち、1年生から4年生までの専門必修科目成績と2013年の国家試験成績の調査が可能であった30名を対象とした。専門必修科目61科目を理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定める教育内容の分類と各学年ごとに開講されている科目に分けた。

各科目の成績A, B, Cをそれぞれ3点、2点、1点とし、国家試験成績（187～225点平均204±11.9点）と各科目の成績との相関関係を調べた。

有意水準は5%未満とした。

3. 結果

正の相関有りは16科目、相関無しは33科目、負の相関有りは0科目、評価不能は12科目（評価がA, B, Cのうち1つのみ）であった。正の相関有りであった16科目の内訳は、専門入門分野1科目、人体の構造と機能および心身の発達3科目、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進8科目、基礎理学療法2科目、理学療法治療学2科目であった。各学年ごとにみると、1年次開講の3科目、2年次開講の9科目、3年次開講の4科目が国家試験成績と正の相関有りであった。

4. 考察

専門必修科目成績と国家試験成績との関連を調査したのは、理学療法学専攻では初の試みである。正の相関有りの科目は1～3年次開講科目にみられ、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進の科目に多く存在した。1年次に開講している科目に国家試験成績と正の相関有りの科目が抽出できたことで、早期にevidenceに基づく学生へのfeedbackが可能と考える。正の相関有り無しでその科目の重要性が決まるとは考えていない。それは、臨床実習5科目は必要ではあるが、国家試験成績とは相関なしもしくは評価不能であったことから明らかである。